

# MD-14型シリーズ 一次圧力調整弁 (液体・空気用)

水道法性能基準適合品 (MD-14CN型)

**製品記号** MD14W-B□ (はん用品)  
MD14H-B□ (温水・油用)  
MD14CN-B□ (ナイロンコーティング)  
※□内には設定圧力調整範囲の記号が入ります。

## ポンプレリーフ (圧力タンク・配管) など

負荷変動による過大な分の圧力を放出させ、機器や配管の圧力を一定に保つ自力式の調整弁で、一種の高性能逃し弁です。たとえば、ポンプの連続運転の場合は、吐出側圧力は負荷変動により変化しますが、バイパス回路にMD-14型一次圧力調整弁を設け、過大な圧力を逃すことにより、吐出圧力を一定に調整することができます。また、圧力タンクや配管の逃し弁として使用することができます。

### ■特長

- ポンプレリーフ弁として使用します。ハンチング・バイブレーションなどを考慮した構造で作動が安定しています。
- 圧力タンクや配管などのレリーフ弁として使用できます。
- ピストン型バランス構造を採用しているため、背圧変動による吹出圧力の変化が微少です。

- 上部側一方向からの分解で内部点検ができるため、メンテナンスが容易です。
- MD-14CN型は、錆にくいナイロンコーティングです。

### ■仕様

種類	はん用品	温水・油用	ナイロンコーティング
型式	MD-14W型	MD-14H型	MD-14CN型
製品記号	MD14W-B□	MD14H-B□	MD14CN-B□
※□内には設定圧力調整範囲の記号が入ります。			
呼び径	15~150		20~150
適用流体 <sup>注2</sup>	水・空気 <sup>注1</sup>	温水・油 (材料を腐食しないもの) <sup>注3</sup>	水・温水
流体温度	5~60℃	5~90℃	5~60℃
設定圧力調整範囲 <sup>注4</sup>	呼び径 80以下 L : 0.05~0.35MPa、M (MD-14CN型は H) : 0.3~0.7MPa 呼び径100以上 L : 0.05~0.35MPa、M (MD-14CN型は H) : 0.3~0.5MPa		
流体粘度	—		800cSt以下
端接続	JIS 10K RFフランジ <sup>注5</sup>		
材質	本体 (FC) <sup>注3</sup> 、要部 (CAC406、SUS)、ダイヤフラム・ディスク (NBR)		
塗装又はコーティング塗膜	内面: 水道用液状エポキシ樹脂 外面: メタリックブルー	内面: 防錆油 外面: メタリックブルー、キャップ: 赤	内外面共ナイロン11 0.3mm以上 (白色)
本体耐圧試験	水圧にて1.5MPa		水圧にて1.75MPa
取付姿勢	水平・垂直自由 <sup>注6</sup>		

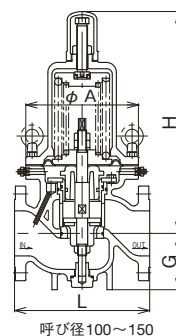
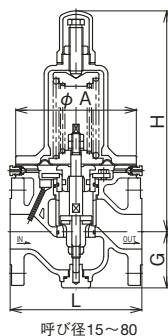
注1. オイルフリーコンプレッサー (ターボ形圧縮機や容積形圧縮機 (ロータリー無給油タイプ)) によるドライエアーの空気圧システムにて使用する場合は、ゴム部品が短時間で著しく劣化することがあります (オゾンラックの発生)。このような場所に設置する場合はお問い合わせください。  
注2. 給水装置に使用する場合は水道法性能基準適合品のMD-14CN型をご使用ください。  
注3. 燃料油及び、ガソリン・軽油などの場合はご使用先 (国土交通省、防衛省など) によっては、本体材質の指定がある場合がありますので、ご確認ください。  
注4. MD-14W,14H型は、設定圧力調整範囲: 呼び径80以下: 0.65~1.0MPa、呼び径100以上: 0.45~0.8MPaも製作しています。  
注5. 呼び径100以上は水道用仕切弁フランジも製作しています。  
注6. 縦配管に設置する場合は呼び径80までとし、メンテナンススペースを広くとってください。呼び径100以上は水平配管に正立取付としてください。  
注7. MD-14W,14H型は、本体側面部に圧力計取付用の接続孔付 (JIS Rc1/4ねじ)、又はこれに圧力計を取り付けた圧力計も製作しています。(圧力計の最大目盛は、設定圧力調整範囲L (0.6MPa)、M, H (1.6MPa) です。)

### ■寸法表

呼び径	L	A	G	H	Cv値	質量 (kg)
15	156	142	65	256	1	10
20	160	142	65	256	2	10
25	160	142	65	257	3.5	10.5
32	180	174	76	332	5.5	17
40	180	174	76	333	8	17.5
50	190	174	81	341	14	19
65	230	218	95	434	22	37
80	250	218	100	439	32	40
100	300	250	125	490	48	67
125	370	340	150	640	75	112
150	400	340	165	655	108	150

フランジ規格 JIS 10K RF

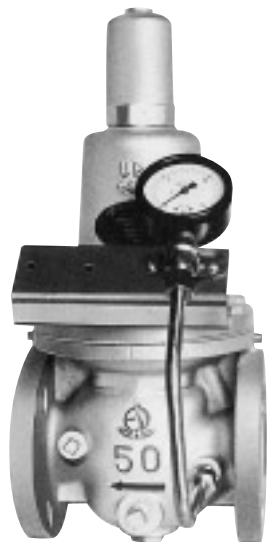
### ■構造図



注. 呼び径により構造が多少異なります。



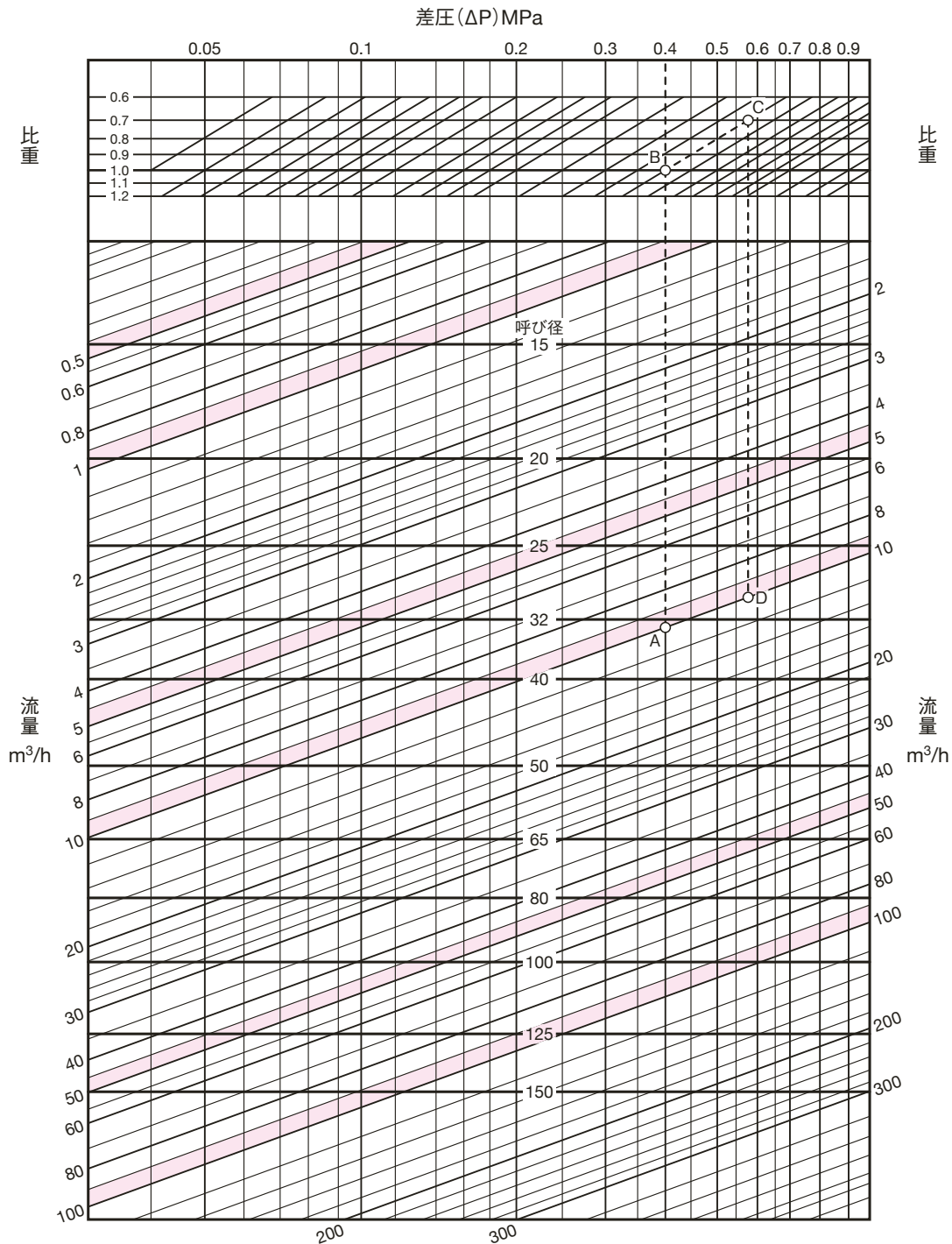
MD-14W, 14H型



圧力計付 (オプション品)

# 資料/MD-14,20、FD-2型シリーズ サーキット弁

呼び径選定図表〈液体用〉



●図表の使い方

設定圧力0.5MPa、背圧0.1MPa、比重1(水)、流量10m³/hの条件における呼び径を求めます。

この時、差圧(ΔP)は、0.5-0.1=0.4MPaとなります。

差圧(ΔP)=0.4MPaを垂直にたどって、

流量10m³/hとの交点Aを求めます。

A点は、呼び径32と40の間にありますから、大きい方の呼び径40を選定します。

同様条件で、比重0.7の場合は差圧(ΔP)=0.4MPaを垂直にたどった線と比重1.0との交点Bを求め、B点より比重

0.7の線上に平行移動してC点を求めます。C点より垂直にたどって、流量10m³/hとの交点Dを求めます。D点は呼び径25と32の間にありますから、大きい方の呼び径32を選定します。

# サーキット弁の種類

## ■概要

高層ビルの空調設備、冷暖房設備に使用される冷温水の圧力調整弁として、その用途により、一次圧力調整弁、落水防止弁、差圧調整弁の三種類がありますが、これらをサーキット弁と総称します。



**一次圧力調整弁(直動式MD-14型)**

ポンプのバイパス弁(ポンプレリーフ弁)として用いられ、ポンプの負荷変動による圧力の増大分を排出しポンプの吐出圧力を一定に保ちます。

大容量用にパイロット式のWVM-02、WVME-02型があります。



**落水防止弁(直動式MD-20型)**

高層ビルの空調設備や冷暖房設備の開放回路方式において、ポンプ停止時に返り管の落水を防止します。

落水防止弁を返り管に取り付けることにより、弁はポンプ停止時に速やかに閉止して返り管の水位の降下を防ぎ空気溜りを生じさせないため、ポンプ始動時の騒音や振動の発生を防止します。通常運転中は、一次側圧力を一定に保ちますので機器に安定した圧力条件を与えることができます。

大容量用にパイロット式のWVMS-02型があります。



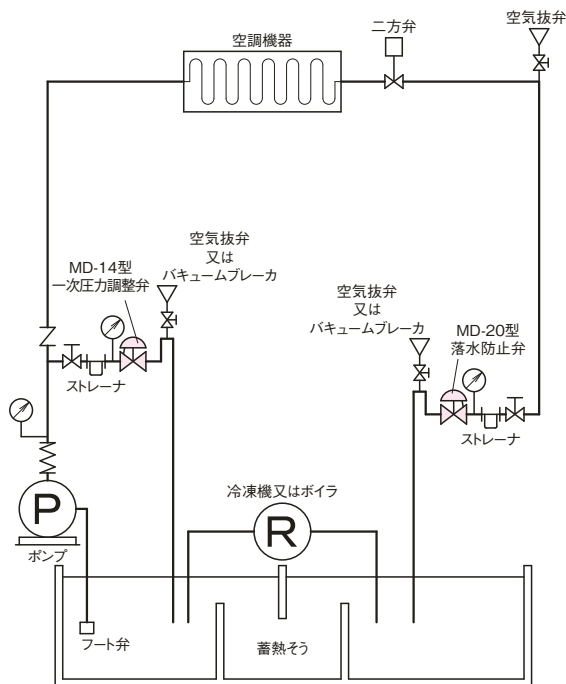
**差圧調整弁(直動式FD-2型)**

高層ビルの空調設備や冷暖房設備の密閉回路において、ポンプのレリーフ弁として使用します。

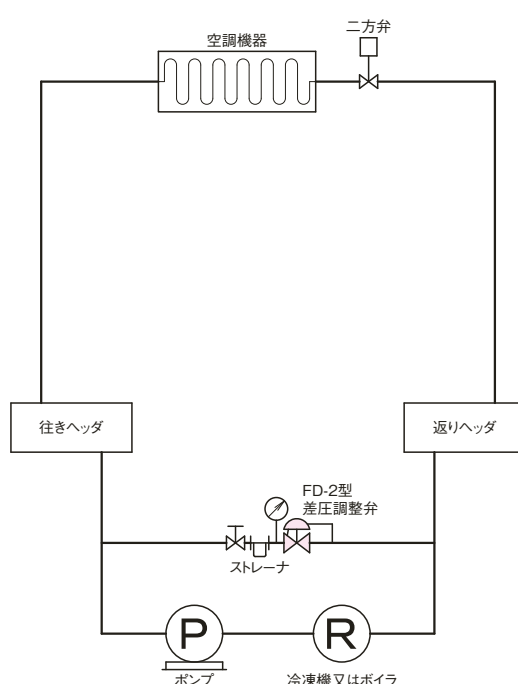
開放回路方式の場合、ポンプのレリーフ弁には、一次圧力調整弁を使用しますが、密閉回路方式の場合は、背圧の如何にかかわらずポンプを常に定流量で運転するため、差圧調整弁を使用します。

大容量用にパイロット式のWVD-02型があります。

開放回路方式



密閉回路方式



# 資料/サーキット弁

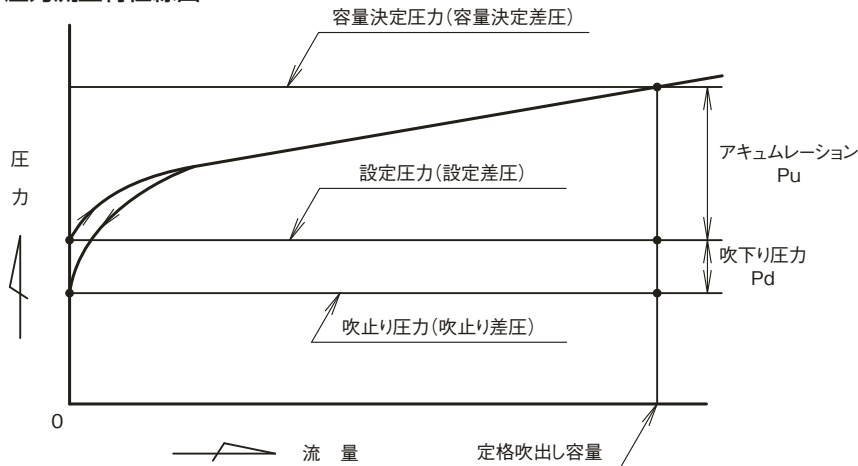
## 4 サーマキット弁

### ■用語

- 設定圧力 (設定差圧) : 一次圧力調整弁、落水防止弁 (差圧調整弁) が作動して、流体が流れ始めたときの入口側における圧力 (弁前後の圧力差)
- 吹止り圧力 (吹止り差圧) : 一次圧力調整弁、落水防止弁 (差圧調整弁) が閉止し、流体の流れが止まったときの入口側における圧力 (弁前後の圧力差)
- 吹下り圧力 : 設定圧力 (設定差圧) と吹止り圧力 (吹止り差圧) の差の圧力
- アキュムレーション : 所要吹出し量を得るために、設定圧力 (設定差圧) を超えての上昇圧力分を % または単位圧力で表わしたもの
- 容量決定圧力 (容量決定差圧) : 定格容量を決定する基準の圧力で、設定圧力 (設定差圧) 以上の規定圧力に達して、流れを継続しているときの入口側における圧力 (弁前後の圧力差)
- 定格吹出し容量 : 容量決定圧力 (容量決定差圧) において保証し得る最大流量

注. ( ) 内は、差圧調整弁の場合

圧力流量特性線図



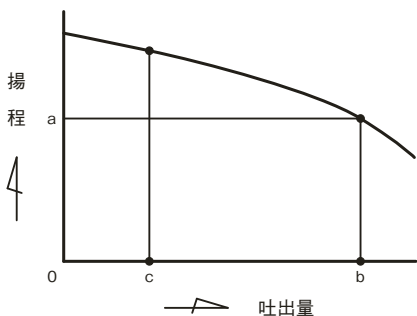
### ■特性

作動方式	型式	アキュムレーション Pu	吹下り圧力 Pd
直動式	MD-14W, 14H, 14CN型	設定圧力 (設定差圧) 調整範囲の最大値 × 15% 以内 ただし、呼び径100以上の0.5MPaばねの時は × 20% 以内	設定圧力 × 10% 以内 (最小値0.02MPa)
	FD-2W, 2H型		
	MD-35F, 37F型	流量特性線図170頁参照	
	MD-20W, 20H型	アキュムレーション線図164頁参照	0.04MPa以内
パイロット式	WVM-02型	設定圧力 × 10% 以内 (最小値0.03MPa)	設定圧力 (設定差圧) 調整範囲 0.05~0.35 (0.3) MPa: 設定圧力 × 20% 以内 (最小値0.03MPa)
	WVMS-02型		
	WVD-02型	0.05MPa以内	0.3~1.0 (0.7) MPa及び0.5~1.6MPa: 設定圧力 × 15% 以内

# 資料/サーキット弁

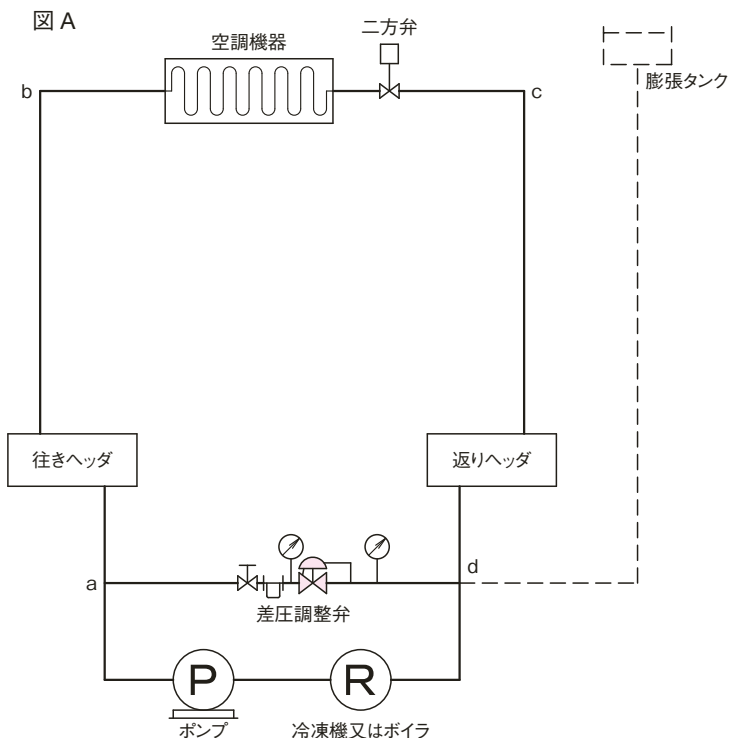
## ■一次圧力調整弁呼び径選定

ポンプ特性線図



1. 呼び径選定には、呼び径選定図表を使用してください。
2. 一次側圧力と、背圧が一定ではなくある範囲にわたって使用される場合、その差が最小となる一次側圧力及び背圧で呼び径を選定してください。
3. 油などで粘度を考慮する必要のある場合は、粘度補正をして呼び径選定をしてください。
4. ポンプレリーフ弁として使用する場合の一次圧力調整弁の逃し量は、次のように決定します。  
 ポンプの吐出側で完全締切状態がある場合は、ポンプ特性線図(左図参照)より、調整圧力に相当する揚程 a の吐出量 b を求めます。b が一次圧力調整弁の逃し量となります。  
 吐出側で、完全締切状態がない場合は、常時使用している最小流量を c とすると b-c が、一次圧力調整弁の逃し量となります。

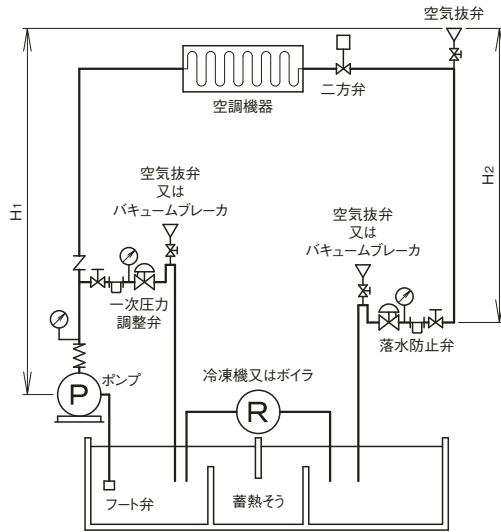
## ■差圧調整弁の選定



1. 呼び径選定は、155頁呼び径選定図表(WV型シリーズは156頁)を使用してください。水温が60°Cを超えるときは呼び径に10~20%の流量の余裕をもたせてください。
2. 呼び径選定上必要な弁前後の差圧  $\Delta P$  は、図Aの場合、abcd間の全圧力損失となります。
3. 図Aの点線部のように膨張タンクがある場合は、差圧調整弁の代わりに一次圧力調整弁を使用することができます。(ただし、ばねの設定圧力は異なります。)

# 資料/サーキット弁

### ■落水防止弁の選定の選定



- 弁前後の差圧  $\Delta P$  (MPa)
- 使用最大流量時のポンプ吐出圧力  $P$  (MPa)
- ポンプから配管最高部までの高さ  $H_1$  (m)
- 落水防止弁から配管最高部までの高さ  $H_2$  (m)
- ポンプ出口から落水防止弁までの配管抵抗と機器抵抗の総和  $W_1$  (MPa)
- 落水防止弁後の抵抗  $W_2$  (MPa)
- 落水防止弁の設定圧力  $P_s$  (MPa)
- 落水防止弁のアクムレーション  $P_u$  (MPa)
- 落水防止弁の吹下り圧力  $P_d$  (MPa)

### ■計算手順 次頁に落水防止弁計算書があります。

手順1. 呼び径選定上必要な弁前後の差圧  $\Delta P$  を求めます。

$$\Delta P = P - \frac{0.098(H_1 - H_2)}{10} - (W_1 + W_2)$$

手順2. 設定圧力(最低)  $P_s$  を求めます。

$$P_s = \frac{0.098H_2}{10} + P_d$$

ここで  $\Delta P > P_s$  を確認します。満足しない場合は、ポンプの能力不足です。

手順3. 設定圧力(最低)  $P_s$  にて呼び径選定図表より呼び径を求め、定格流量を求めます。

手順4. アクムレーション  $P_u$  を求めます。  
MD-20型の場合

$$\text{定格流量\%} = \frac{\text{指定流量}}{\text{定格流量}} \times 100\%$$

を求め、アクムレーション線図よりアクムレーション  $P_u$  を求めます。  
WVMS-02型の場合は  
設定圧力(最低)  $P_s \times 10\%$   
(最小値0.03MPa)

手順5. ポンプ能力が次式を満足することを確認します。

$$P \geq \frac{0.098H_1}{10} + W_1 + P_u + P_d$$

満足しないときは、呼び径をアップして再度計算します。

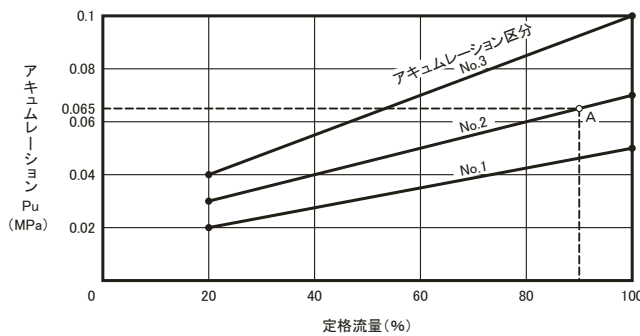
なお、ポンプの余裕圧力は

$$P - \left( \frac{0.098H_1}{10} + W_1 + P_u + P_d \right)$$

となりますので、実際の設定圧力は、設定圧力(最低)  $P_s$  から  $(P_s + \text{ポンプの余裕圧力})$  の範囲でご決定ください。

注. 水温が60℃を超えるときは、呼び径に10~20%の流量の余裕をもたせてください。

### ■MD-20型落水防止弁アクムレーション線図



### MD-20型アクムレーション区分

No.	呼び径	記号	設定圧力調整範囲
1	15~50	L	0.05~0.35MPa
	65~150	L	0.05~0.35MPa
2	15~40	H	0.3 ~0.7MPa
	50~80	H	0.3 ~0.7MPa
3	100~150	H	0.3 ~0.5MPa

### ●アクムレーション線図の使い方

呼び径80、設定圧力(最低)  $P_s = 0.29$ 、流量42m<sup>3</sup>/hにおけるアクムレーション  $P_u$  を求めます。

呼び径選定図表より定格流量は47m<sup>3</sup>/hです。

$$\text{定格流量\%} = \frac{42 \text{ (m}^3\text{/h)}}{47 \text{ (m}^3\text{/h)}} \times 100 \text{ (\%)} = 89\%$$

となります。

アクムレーション区分No.2のA点より、アクムレーション  $P_u$  は0.065MPaとなります。

### ●手順2.吹下り圧力 $P_d$ の求め方

型式	吹下り圧力 $P_d$
MD-20型	0.04MPa以内
WVMS-02型	設定圧力調整範囲
	0.05~0.35MPa (L) : 0.03MPa (設定圧力0.15MPa以下)
	0.2 × $P_s$ (設定圧力0.15MPaを超え0.35MPa以下)
0.3~0.7MPa (H) : 0.15 × $P_s$	

WVMS-02型の場合、 $P_s = \frac{0.098H_2}{10} + P_d$  の  $P_d$  に上記表の0.2 ×  $P_s$  又は0.15 ×  $P_s$  を代入して計算してください。